

様式1

令和3年度 学校評価表

|        |                 |  |  |
|--------|-----------------|--|--|
| 学校教育目標 | 志高く 未来を拓く 高西中教育 |  |  |
|--------|-----------------|--|--|

|         |                      |        |  |
|---------|----------------------|--------|--|
| a ミッション | 中学校区で取組む「志プロジェクト」の推進 | a ビジョン | 高い志とふるさとに誇りを持ち「知りたい・学びたい・挑戦したい」があふれる学校<br>・ふるさと学習、キャリア教育を推進する学校 ・生徒の可能性を引き出し、磨き、高める学校<br>・安全で安心して任せられる学校 ・教職員がやりがいを持って活動している学校 |
|---------|----------------------|--------|--|

尾道市立高西中学校

| 評価計画                       |   |   |  | 自己評価   |                            |                     |       |      | 学校関係者評価  |   |   | 改善計画   |   |  |
|----------------------------|---|---|--|--------|----------------------------|---------------------|-------|------|--|---|---|--|---|--|
| b 中期経営目標                   | c 短期経営目標  | d 目標達成のための方策  | e 評価指標   | f 目標値  | 7月                         | 1月                  | h 達成度 | i 評価 | j 結果と課題の説明   | k 二次評価  |   |  | l コメント  | m 改善案  |
|                            |   |   |  |        | g 達成値                      | g 達成値               |       |      |  | イ   | ロ | ハ  |   |  |
| 1 小中連携「志プロジェクト」で心一つに未来をつくる | 特別活動の研究推進<br>↓<br>集団づくりの<br>カリマネの推進<br>↓<br>互いの個性を認め合い、<br>互いを高め合える集団づく<br>り<br>↓<br>学級力の向上 | ①学級力向上プロジェクトを軸とした学級力アンケートの活用<br>②委員会活動をはじめとしたよりよい学校づくりに向けた生徒会活動<br>③学級力を踏まえた話し合い活動の推進   | ①②③生徒・教員アンケート  | 80%    | ①生徒<br>97.7%<br>教師<br>100% |                     | 124%  | A    | 教員は4月に作成した学級経営案をもとに学級経営を行っている。特に学級力アンケートを中心に学級の現状を把握し、学級委員会を中心に話し合いを進めることができた。各学級のカリキュラム・マネジメントを回しながら学級経営を進めている成果が見られた。<br><br>生徒は係や委員会活動に対して責任を持って取り組んでいるということに対して肯定的である。それに対して、教員アンケートから、活動を計画的に仕組むことが十分ではないということがわかる。<br><br>全校学活を通して学校全体で計画的に話し合い活動を行うことができた。また、学級委員会と運動しながら生徒主体の活動を仕組むことができた。今後は、各学級単位でそれぞれの課題や状況に応じて話し合いを進めていくことができるように計画していきたい。 | 3   |   | ○「通わせてよかった」「行ってよかった」は結果論であるが、市内の高校はそれぞれ特色を持っている。中学校も「これがすごいぞ」が出せるように、特色づくりをしてほしい。<br>○コロナ禍の影響で地域貢献活動や職場体験、みなと祭のボランティアがなくなり、世の中と離れている。学校の中だけでの出会いしかない中で、全校学活で1年生が3年生の姿から学ぶことやキャリアチャレンジで働く人と出会いをつくることは有効である。さらに、高西の卒業生で社会人になっている人を呼んで、「先輩から学ぶ」場を設けてはどうか。<br>○コロナ禍で困っていることがあっても工夫をしている。体育大会など全校の交流がないことは残念だが、オンラインミーティングなどの工夫をされており、この時代に合った集団づくりをされていると思う。<br>○体育大会は学年別で頑張っている姿がみられた。その努力が素晴らしい。<br>○学級力アンケートは「学習」が低いが、生徒自らの「集団の課題として力を入れていこう」という意識づけにつながる取組である。<br>○今現在、歩道（通学路）の清掃を大人がしている。高齢の方も多く、「しんどい」という声を聞く。「学校に通っている孫がいなくてもやらない」との思いでしてくださっている方も多いので、「ちょいボラ」で歩道を綺麗にしてもらえたい。 | ○1学期の取組についてアセスや学級力アンケートをもとに学級経営案の見直し・改善を行う。それをもとに、2学期に重点的に取り組むことを担任が明確にし、2学期学級開きに担任から方向性を生徒へ知らせる。2学期の10月に行われる学級力アンケート、11月のアセスを踏まえながらその都度見直しを行い手立てを講じていく。<br>○係・委員会活動についても取組について見直す機会を設定し「与えられたこと」だけをやめるのではなく、自分たちの課題を改善できるよう取り組む。2学期の活動スケジュールを見直し、各先生方に始業前に提示することで見直しを持って取り組んでいく。<br>○全校学活を通して、教員と生徒が目的を共有する。話し合い活動については、学級力アンケート後の話し合いだけでなく、話し合ったことについて取り組みが十分になされているかなど、定期的に見直しをしながら目的の再確認や動機付けを行いながら学級の一人として当事者意識を持って取り組ませる。 |  |
|                            | 目指せ！<br>生徒の笑顔・保護者の信頼・教師のやりがい<br><br>～生活と学習のPDCAを回せる生徒の育成～<br><br>↓<br>15歳の自立と自律             | 授業改善のカリマネの推進<br>↓<br>小中連携「志プロジェクト」の推進<br>+<br>「主体的で対話的で深い学び」の実現<br>↓<br>学力の向上   | ①一人1回研究授業、単元構想図の作成<br>②学ぶ必然性のある課題設定<br>③次の学びにつなげる振り返り<br>④学びを深める協働学習（理由付けのある意見交流）<br>⑤授業スタイルの徹底<br>⑥学力分析と改善計画→実行<br>⑦小学校との互見授業の実施（授業改善の共通テーマの徹底） | ①達成率   | 100%                       | 100%                | 100%  | 100% | B  | 毎月研究授業を実施し、協議したことを通信としてまとめ、校内研究を積み上げていく努力ができた。<br>本質的な問いや単元を貫く問い、各教科で動かしたい見方・考え方を意識した単元構想図を作成することができた。<br><br>めあての提示と振り返りの実施はできていないが、課題設定が生徒の学びたいという意欲を十分に引き出すことができていない。生徒の目線にたち、資料を効果的に提示しながら、既習事項とのズレや、新たな発見を意識し、生徒が「なぜだろう」「学んでみたい」と思わせる導入を目指す。<br><br>協働学習を取り入れてはいるが、「自分の考えをもたせる」ことや「考えを発表する」ことに対して、教員の手立が必要である。具体的には個人思考の際の資料や視点を十分に提示することや、思考ツールを効果的に活用すること。発表の型やルールを明確に示すことを進めていく。<br><br>基礎的な知識は身につけている様子が見られるが、長文を読んで答える問題や、複数の資料から読み取ったことをもとに考えたり、いくつかの知識を結びつけて考えたりする問題に苦手意識がみられる。 | 3 |  | ○「学びの必然性」とあるが、自分たちが中学生の頃は「高校に行かんといけん」程度だった。しかし、目標をもつのは大切で、「この高校に行きたい」「行きたいからどうする」になる。「なぜ」があるから努力できる。目標意識はここで持たせると伸びる。小さな目標を達成することにより「やった」という自信を持たせていってほしい。<br>○受け身ではなく自分たちで考え行動する力がついてくると思う。<br>○学力テストについては、苦手意識をなくし頑張ってもらいたい。<br>○保護者アンケートの「宿題の量は適切である。」の評価が厳しい。子どもと保護者の思いに温度差があることも考えられる。   | ○生徒の目線にたち、既習事項とのズレを意識し、「なぜ」と思わせる導入を目指す。<br>○「自分の考えをもたせる」「考えを発表する」ための教員の手立てを強化する。<br>○ICTを使うことを目的とせず、より効果的な活用を検討する。<br>○発表の仕方について例示し、意識して取り組ませる。<br>○課題解決ノートについて、模範となる例を示し、改善を図る。 |
|                            | 働き方改革のカリマネの推進<br>↓<br>職能の向上<br>+<br>教育の質を高める働き方改革の工夫<br>↓<br>チーム力の向上                        | ①本校「人材育成構想」を踏まえ、一人一人が自身の目指す教職員像を「業績評価（自己申告）書」に明示し、年間を通じた実践を促す。<br><br>②学校教育目標の達成に向けて、主任・主事がリーダーシップを発揮し、担当する校務を自律的かつ効率的に行う組織づくりを進める。 | ①業績評価書「取組内容についての自己評価」<br>評価『3』以上<br><br>②働き方アンケート「学校教育目標の達成に向けた取組に、すべての教職員が参画している」   | ①業績評価書 | 90%                        | 業績評価未実施<br>(9月実施予定) | —     | A    | 年度当初面談を通じて、「学校評価（学校組織目標）」と「業績評価書（個人目標）」のつながりを意識させ、学校経営の一翼を担う自覚を高めた。<br><br>学校経営会議の毎週開催により、各部の実践において主任・主事が、校長の方針を踏まえたリーダーシップを発揮している。一方で業務をより分担し、業務量の平準化を図る必要がある。  | 3   |   | ○校長先生の指導のもと、主任主事の先生方はリーダーシップを発揮されていると認めます。今後はデータの管理・共有が重要であると考えます。共有することで働き方改革につながると考えます。<br>○コロナ禍でこれだけのことをしていただいているのはありがたい。働き方改革をしているが、先生方はお休みがとれているのか。土日に部活もあるし、体を壊さないようにお願いします。   | ○年度中間面談や日常の対話を通じて、上半期の自身の実践や業務の遂行状況の成果と課題を振り返らせ、改善を促す。また、「学校評価（学校組織目標）」と「業績評価書（個人目標）」のつながりをさらに意識させ、学校経営の一翼を担う自覚につながる。<br><br>○学校経営会議等を通して、各部の業務力レナターに基づいた業務遂行並びに主任・主事による進捗管理を促す。さらに、今年度のデータの整理、蓄積により、次年度の業務改善につなげる。   |  |

「学校は楽しい」「高西中学校に通わせてよかった」という生徒・保護者の割合：生徒90%、保護者90%

学校教育目標の達成に向けた取組に、

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）  
B：80≦（ほぼ達成）<100  
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100  
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。